

地域のこし

地域支え合いセンター活動誌



山江村社会福祉協議会

ごあいさつ

令和2年7月豪雨災害の発生から4年8か月が経ちました。本村においても50世帯の方々が土砂崩れや河川の氾濫により被災され、過去に類がないと言われた未曾有の大災害は、地域と村民の生活に大きな爪痕を残しました。



本会では、発災直後から「山江村災害ボランティアセンター」を立ち上げ、村当局との連携のもと、熊本県社会福祉協議会をはじめとする各支援団体の皆様やボランティアの皆様方のご支援とご協力を得て、新型コロナウイルス感染症の対応にも配慮しながら、被災された方々のお困りごとに対応いたしました。

その後、被災された方々の日常生活支援や生活再建支援を目的として、令和2年10月に「山江村地域支えあいセンター」を開設し、主任生活相談員1名・生活支援相談員1名の計2名のスタッフが中心となり、各戸への訪問活動や相談対応を主として、本会や村当局への情報共有・協力要請を行うなど各種支援を行ってまいりました。

本村の被災世帯は、居住されていた家屋や村営住宅に大きな損壊があった方、インフラの崩壊により従前の居住地域を出て長期避難が必要となった方、被災後の自立した生活が困難な方等様々で、生活や住まい再建までの道のりは決して容易ではないことが予測される中、常に住民の方々に寄り添い、個々の状況にあった支援ができるよう努めてまいりました。

大きな課題であった村営住宅の再建、生活インフラの復旧に目途が付いたことを機に、令和6年6月末、長期避難を余儀なくされていた最後の被災者の方々が、それぞれの生活再建を成され、仮設団地を後にされました。

生活再建後も日々の暮らしが安定するまでの支援を継続して行い、令和6年9月30日をもって「山江村地域支え合いセンター」を閉所いたしました。

本活動記録誌は、発災直後から被災者全員が生活再建されるまでを記録に残しており、いつ発生するか分からない災害への備えになればと考え、作成いたしました。

結びに、これまで本会の活動、そして山江村地域支え合いセンターの活動に心温まるご支援を頂きました皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご指導ご鞭撻賜りますことをお願いいたしまして、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和7年3月

社会福祉法人 山江村社会福祉協議会
会 長 内 山 慶 治

目 次

会長挨拶

1	山江村の概要	1
2	令和2年7月豪雨災害における被災の状況 ...	3
3	山江村災害ボランティアセンター	7
4	山江村地域支え合いセンター	10
5	被災者の状況	11
6	活動報告	13
7	仮設団地の様子	
	サロン活動	16
	コミュニティ作りの会	18
	季節の行事	19
	畑づくり	22
8	各種支援	25
9	山江村の方との触れ合い	30
10	生活再建に向けて	34
11	被災者の声～体験をして思うこと	37
12	編集後記	39

1 山江村の概要

山江村は、熊本県の南部、人吉球磨盆地の西部に位置する、のどかな田園風景と緑豊かな山々に囲まれた自然溢れる農山村です。総面積121.19km²のうち約9割を森林が占めており、南部は比較的平坦で、農業を主体とした地帯ですが、北進するにしたがって、山麓の丘陵地域（畑・果樹園）を経て、山地がせまり漸次急峻な山岳地帯となっています。この山岳地帯に源を発する万江川はヤマメや鮎などが生息する九州有数の清流であり、上流ではイワナの生息も可能と言われています。また、栗の栽培に力を入れており、栗の産地としても知られています。

【人口】 3, 170人 【世帯数】 1, 195世帯（令和6年10月末現在）



【村鳥】 めじろ



【村花】 つつじ

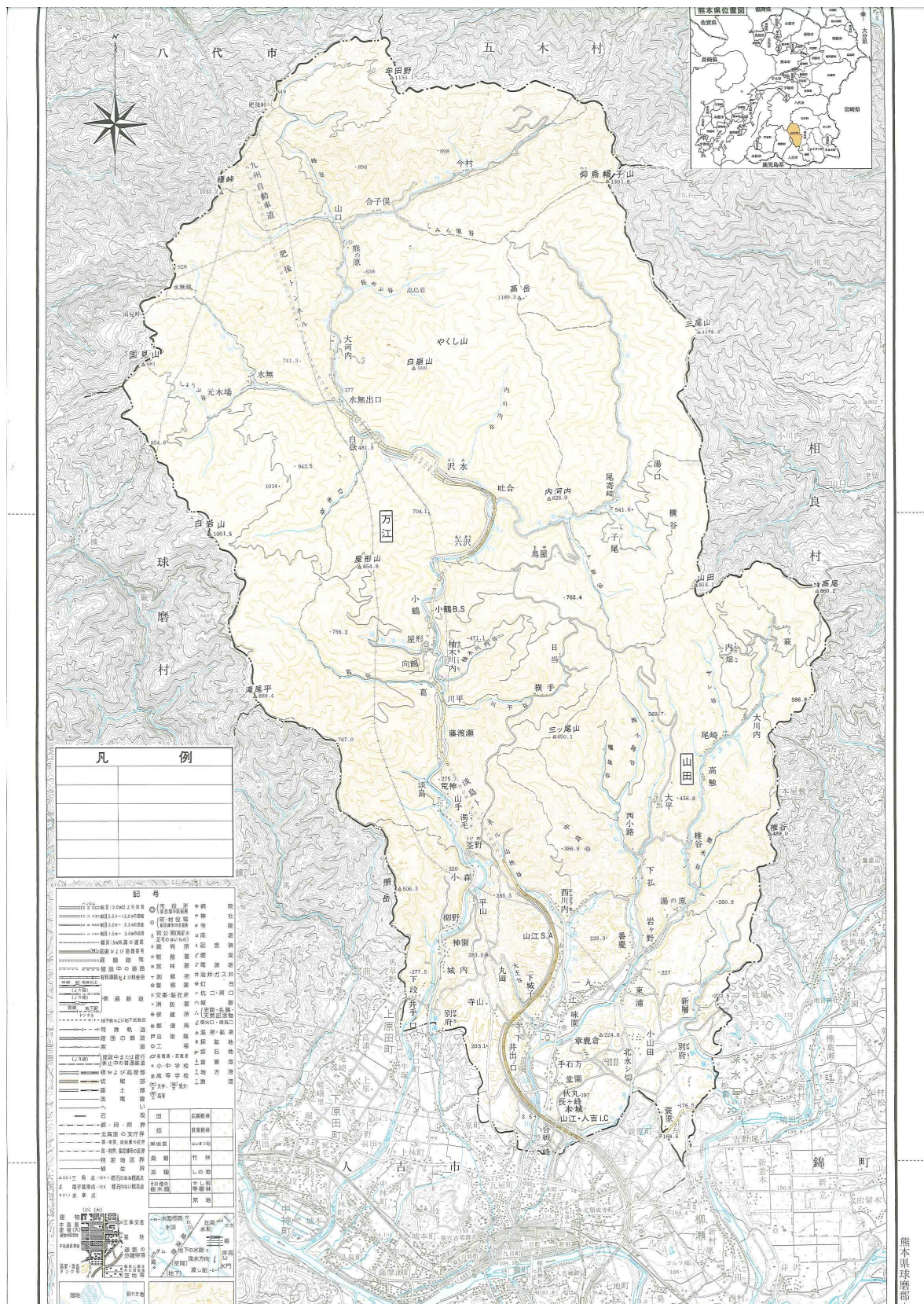


【村鳥】 スギ



山江村ホームページより

山江村全図



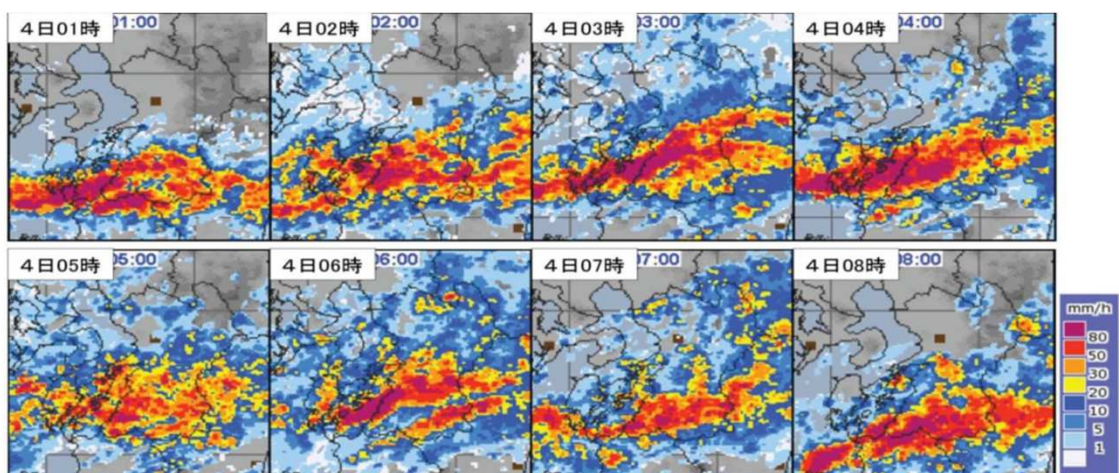
2 令和2年7月豪雨災害における被災の状況

出典：山江村復興計画（令和3年3月策定）

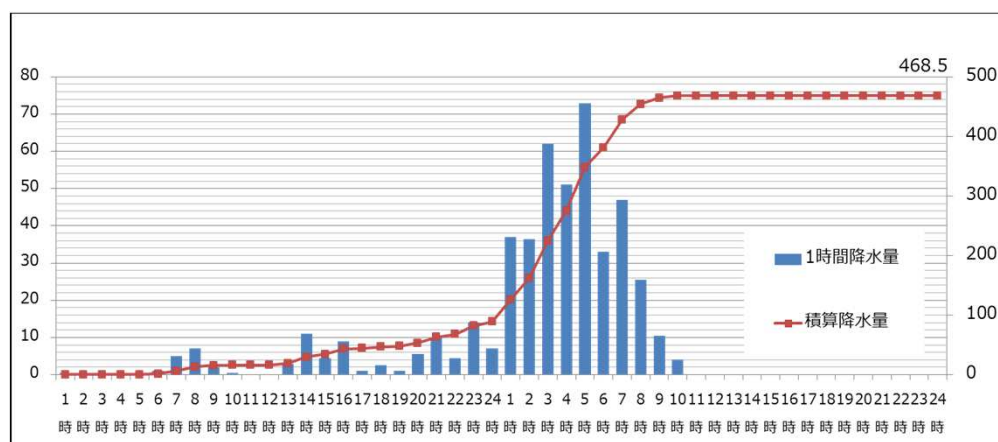
（１）気象の概要

令和2年7月3日から8日にかけて、停滞した梅雨前線の活動が活発となり、西日本から東日本の広い範囲で大雨となりました。3日夜には梅雨前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、4日未明から朝にかけて、1時間30ミリ以上の激しい雨や50ミリ以上の非常に激しい雨が降りました。

球磨川流域では線状降水帯が長時間にわたり停滞し、多いところでは48時間の総降水量が500ミリを超え、本村においても7月3日から4日までの24時間の総降水量が453ミリ、48時間の総降水量が468.5ミリの記録的な大雨となりました。



※「熊本地方気象台 災害時気象資料」より抜粋及び一部加筆



【図-1】7月3日から4日におけるアメダス降水量時系列図（観測所：山江村大字万江屋形）

(2) 被害状況

本村では、記録的な豪雨の影響により、土砂災害や河川の氾濫による浸水被害や道路、河川、農地等に甚大な被害が発生しました。

①人的被害 なし

②住家被害

被害別	山田地区	万江地区	総計
全壊	0	11	11
大規模半壊	0	6	6
半壊	1	7	8
一部損壊	6	14	20
計	7	38	45

※上記には、村営住宅『城内団地』10戸を含む。
また、住宅被害にかかる写真は掲載していません。

【県による応急仮設住宅整備】

山江村中央グラウンド仮設団地 25戸

令和2年7月11日着工

令和2年8月20日完成

令和2年8月22日入居開始



③避難者数（最大時）

種別	箇所数	世帯数	避難者数
指定避難所	2箇所	22世帯	34名
福祉避難所	2箇所	5世帯	6名

【自衛隊による救助者数】

7月7日：陸路救助（大川内地区6名）

7月8日：ヘリ救助

（尾寄崎地区6名、

山口・熊の原・合子俣地区8名）



④断水状況

世帯数	期間	区域
172世帯	令和2年7月4日～ 令和2年7月15日	第3配水池系の万江地区 第4配水池系

※地域水道（尾寄崎地区・鳥屋地区・山口地区・大川内地区・合子俣地区）を除く。

【給水支援】

宇土市：令和2年7月5日

熊本市：令和2年7月6日～令和2年7月16日

【自衛隊による入浴支援】

令和2年7月12日～令和2年7月19日



給水支援



自衛隊の入浴支援

⑤公共土木施設

種別	被害箇所	うち、村管理分
道路	24路線	22路線（68箇所）
河川	5河川	3河川（8箇所）
橋梁	5本	5本
砂防設備	5箇所	—
上水道	7箇所	7箇所
下水道	1箇所	1箇所

※令和3年2月末時点



【護岸流失】万江城内地区



【道路決壊】万江淡島地区



【道路決壊】山田下払地区



【橋梁流失】万江足算瀬地区

⑥農地・農業用施設

種別	箇所数
田・畑 ※小規模災害含む	150箇所
頭首工（堰）	10箇所
水路	30箇所
農道等	10箇所

被害面積	
田	25.80ha
畑	3.20ha

※令和3年2月末時点



山田番慶地区



万江下の段地区

⑦山地・林道

種別	箇所数
山地	山腹崩壊 14箇所
林道	10路線（21箇所）、小規模128箇所
作業道	17路線（40箇所）、小規模11箇所

※令和3年2月末時点

⑧情報通信施設

山江村ケーブルテレビ：光ケーブル断線 3箇所
（下払・大平地区、尾寄崎・鳥屋地区、大川内地区）

⑨教育施設

山江中学校：法面崩壊 1箇所

⑩その他の施設

丸岡公園：法面崩壊 1箇所

【山江村災害ボランティアセンター】

令和2年7月豪雨災害への支援として、令和2年7月10日に山江村社会福祉協議会において『山江村災害ボランティアセンター』を開設しました。

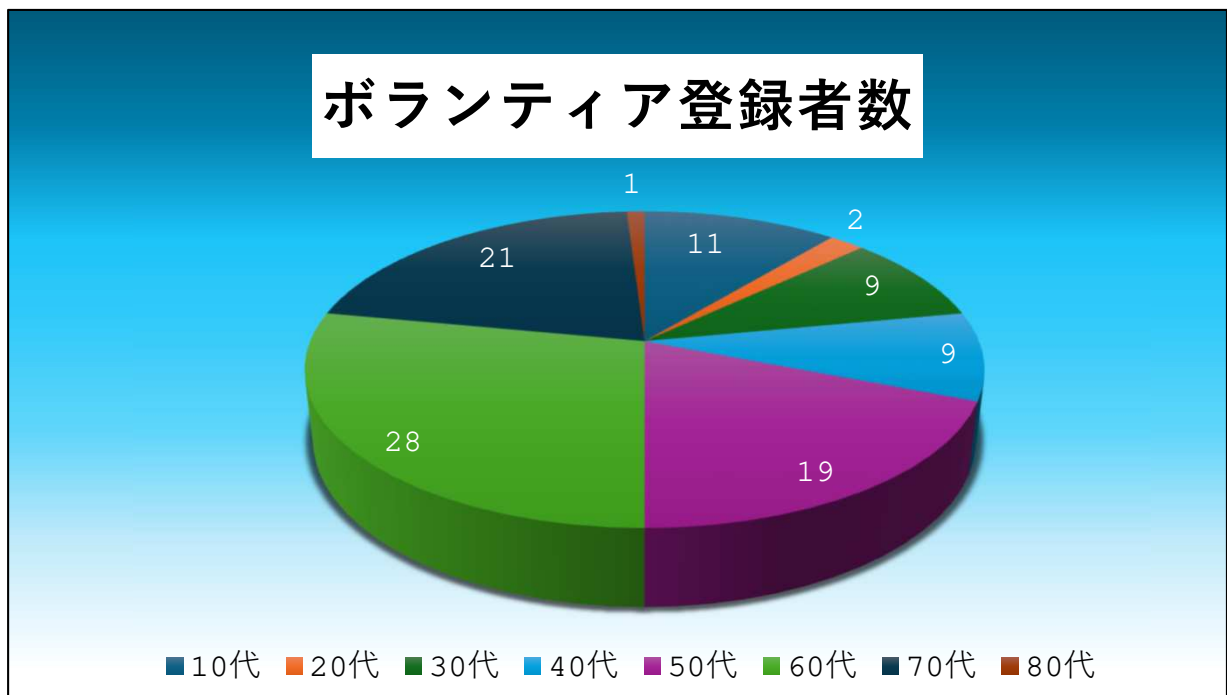
事前登録ボランティアを募り、開設より167名（うち、村内150名）の方が登録され、村内被災者への支援活動にご協力いただきました。

被災されたお宅の土砂除去、災害ゴミの分別・搬送など数多くの作業をご支援いただき、同年7月24日に山江村災害ボランティアセンターを閉所。

7月25日から『山江村復興支援センター』として、引き続き村民のみなさまのご依頼の対応を行うとともに、人吉市・球磨郡でのボランティア活動を行い、令和3年3月31日にセンター閉所となりました。

両センターを通して、延べ310名のボランティアの方の活躍がありました。毎日暑い中活動いただきましたボランティアのみなさま、並びに全国からの支援物資のご寄附、温かい励ましの言葉に心から感謝申し上げます。

センター名	登録者 実数	活動 延べ 人数	活動 日数	活動件数	
				依頼	完了
災害ボランティアセンター	167	177	8	17	17
復興支援センター	40	133	5	10	10



《 ボランティア活動 ～ 一連の流れ ～ 》

① ボランティアの募集・ボランティア依頼（ニーズ）

《ボランティア募集》

《ボランティア依頼の案内》

【周知の仕方】

- ★防災無線
- ★村内回覧
- ★山江村ケーブルTV
- ★ホームページ

② ボランティアの登録・ニーズの作成

③ 活動日を決定し、ニーズに沿った登録ボランティアへ活動の依頼

④ ボランティア活動



《ボランティア活動風景》

》



活動前



活動中



活動後



資材の返却



助けあいの姿に『心より感謝』



4 山江村地域支え合いセンター

令和2年10月1日に、山江村社会福祉協議会が山江村より山江村地域支え合いセンターを受託。11月12日仮設団地敷地内にプレハブの事務所を開設し本格的な訪問支援体制が整い活動開始しました。12月には生活支援相談員も加わり、主任生活相談員と二人体制となったことで、支援の幅も拡大しました。

【支え合いセンターの思い】

令和2年7月豪雨災害において、住まいを無くされた方や道路の崩壊により避難を余儀なくされた方、生計を立てていた事業が出来なくなった方など、様々なお困りごとを抱えた25世帯55名の方が8月に仮設団地に入居。「生活再建」の課題も、被災状況や入居に至った理由により様々でした。「生活を取り戻せるのか」「いつになったら帰れるのか」という不安が大きく、そのストレスへの対処も当初の課題でした。今回のセンター活動は発災から数か月経過した時期からのスタートとなりましたが、不安やストレスは日々あるものなので、より迅速なセンター設置、そして支援体制の確立が重要だと感じました。



5 被災者の状況

被災世帯	
仮設：25世帯	入居総数 55名
在宅：25世帯（罹災証明発行世帯）	

※仮設入居者のうち、道路が崩壊し自宅生活困難となった世帯：11世帯

※罹災区分を持つ世帯で、道路損壊もかかる世帯：5世帯

罹災区分	全体（仮設入居世帯）
一部損壊	17（3）
全壊	10（9）
大規模半壊	5（2）
半壊	8（1）

【支え合いセンターの思い】

①罹災区分を持つ世帯のうち、村営住宅が8世帯。個人で自宅に何らかの手を加える必要のある世帯は3世帯であり、そのすべての世帯が災害復旧工事の地域と重なっているため、自宅再建までの道のりはかなり遠いと感じられました。

②道路事情で長期避難となった世帯は万江地区の山間部ばかりで、道路復旧工事が長引くことが予想され、長期間の避難生活が続くと思いました。

〈入居世帯の概要〉

仮設入居者の概要	世帯数	
65歳以上のいる世帯	16	高齢者のみの世帯：10世帯 (うち、独居は5世帯)
64歳以下の世帯	9	

※65歳以上の世帯のうち、何らかのサービスを受けている世帯：6世帯

※高齢者のみの世帯のうち、家族が施設入所している世帯：1世帯

※64歳以下の世帯のうち、未就学児・児童・学生のいる世帯：6世帯

【支え合いセンターの思い】

* 入居世帯の被災前の背景から見たもの

①今回の災害で入居された世帯について、比較的同じ地域の居住者同士で以前から交流していた世帯が多くありました。地域性が深く、お互いに馴染みの関係性も既に構築されていたので住民コミュニティづくりの礎となりました。

②就労世帯がほとんどであり、日中仮設に滞在する住民の数は限られていたので、見守り対象者は把握しやすかったと感じます。

③自営業の世帯もあり、道路状況との兼ね合いで収入への影響が気になりました。

6 活動報告

【支え合いセンターの思い】

開設当初は物資のお届けが多く、各世帯へお届けに飛び回る日々でした。届けられる物資は何もかもが有難く、生活の中では必要性のある物資もいくつかあり、個別に協力支援をお願いしたこともありました。



仮設住民と顔を合わせる機会も多く、立ち話は日常です。

物資支援団体からのお届け物を配達に回ります



バレンタインにはチョコをちょこっとお届け🍫



バルビーにお願いして布団乾燥機を提供いただき貸し出しを始めました

〈活動報告〉

令和2年11月から仮設団地全世帯を対象に生活再建に関する聞き取り調査開始。12月から2名体制となり在宅被災者の全戸訪問を行い、在宅被災者のうち、独居や高齢者のみの世帯で継続支援の必要性があると思われた6世帯はその後も随時訪問支援を行いました。

- ・ 訪問総数 2,128回
(内訳：仮設1,716回・在宅412回)
- ・ チラシ・書類お届け 2,450回
(内訳：仮設2,424回・在宅26回)

※集計期間：令和2年11月～令和6年9月30日

〈山江村支え合いセンターの特色〉

- ①仮設団地内に事務所を設置したことで、事務所→即時見守りの体制がとれた。
- ②独居高齢者で見守り支援が必要な方の訪問が1日に何度もできた。
- ③長期インフラ避難世帯が半数近くあり、役場からの書類等の配布も支え合いセンターで行った。

【支え合いセンターの思い】

在宅被災者の訪問の中には、発災以前から地域でも「心配」と声が出ていたものの関わるきっかけがなかった世帯がありました。今回、発災を機に訪問活動できたことで、見えなかった世帯の現状が浮き彫りになったこと、対象者自身と関係性が持てたこと、そして何よりその人自身の思いを聞くことができ支援できたことは、支え合いセンターの役割が果たせたと思います。

災害復旧は長期になると思われ、復旧の過程も住民にとっては不安だらけだろうと感じられました。工事等の説明会も多数開催され、センターとしても住民の問い合わせに対応できるよう時間の許す限り同席しました。

〈復旧工事等説明会〉

災害復興に係る住民向け説明会への参加	参加回数	備考
大川内地区水道復旧工事 万江地区道路復旧説明会	7回	みんなの家
15区災害復旧説明会	1回	屋形コミュニティセンター
旧城内団地再建説明会 中鶴団地説明会	6回	みんなの家

〈センター活動〉

活動日	内容	備考
令和3年2月14日	天草漁業士会訪問	総菜お届け
令和3年3月9日	木製品お届けと緑の少年団訪問	
令和3年3月13日	仮設消防訓練、生協炊き出しイベント	消火器訓練
令和3年4月17日	AEDを使った救急講習会	消防署講話
令和3年4月23日	熊本県住まい対策課被災地視察同行	現地視察
令和3年5月25日	グリーンカーテン設置作業	NPO法人緑のカーテン応援団
令和3年6月6日	除草作業	
令和3年6月17日	仮設団地駐車場区画割作業	
令和3年8月20日	八代市被災地視察研修	現地視察
令和3年9月23日	熊本県知事と被災者との意見交換会	
令和3年10月24日	生協炊き出しイベント	
令和3年10月31日	市川海老蔵氏仮設団地表敬訪問	
令和3年12月19日	仮設団地餅つき	山江村観光交流促進協議会主催
令和4年2月20日	天草漁業士会訪問	総菜お届け
令和4年4月3日	仮設団地総会	
令和4年6月5日	除草作業	
令和4年6月19日	生協炊き出しイベント	
令和4年8月28日	除草作業	
令和4年10月23日	AEDを使った救急講習会	消防署講話
令和4年12月18日	仮設団地餅つき	山江村観光交流促進協議会主催
令和5年3月4日	山川豊氏仮設団地表敬訪問	
令和5年3月26日	仮設団地総会・寄せ植え会	
令和5年10月22日	除草作業	
令和5年12月17日	生協炊き出しイベント・仮設団地餅つき	山江村観光交流促進協議会主催

7 仮設団地の様子

〈サロン活動〉

月曜と木曜の週2回みんなの家に集まり、運動を中心としたサロンを展開。仮設団地居住者の中からお二人に出欠確認やDVDの準備などのお世話係をしていただきました。



〈サロン活動〉



復興リハビリテーションから薬剤師やリハビリ専門職、歯科衛生士の方の訪問がありました。皆さん、講師の方の説明を聞いて健康について学びました。



支援団体からカラオケ機材の提供で皆さん自慢ののどをご披露される機会もあり、いつもの運動だけでなく、また違った楽しみのサロンになった日もありました。

〈コミュニティ作りの会〉

令和3年4月より活動開始。行事計画を立て活動に取り組まれました。

【支え合いセンターの思い】

入居者が以前から顔なじみの関係という強みもある中、誰が先導するかという問題がどこにでも起き得ること。住民を引っ張ってくれる人はいないかなあと内心ドキドキしていたが、入居後すぐの顔合わせ会でリーダーとサブリーダーが決まり、その後の活動にも大変協力いただきました。このような状況の中、率先して役を引き受けていただいた方に感謝すると共に、それぞれの思いを胸にコミュニティ作りの会がスタートしました。



年2回の除草作業



〈季節の行事〉

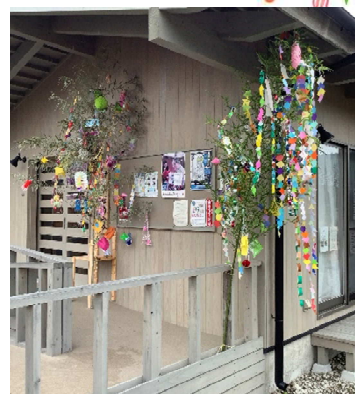
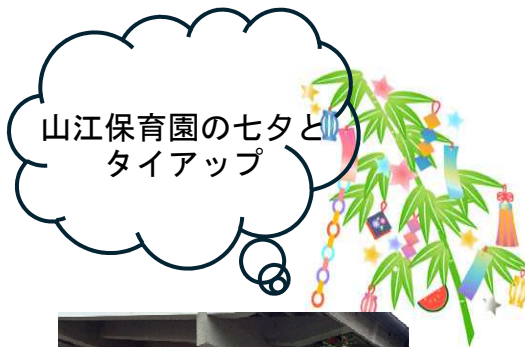


星に願いを込めて...☆

災害で普通の生活が一変しましたが、笹に沢山の飾りと願いを込めた短冊を飾り復興を願いみんなで七夕作り。



山江保育園の七夕と
タイアップ

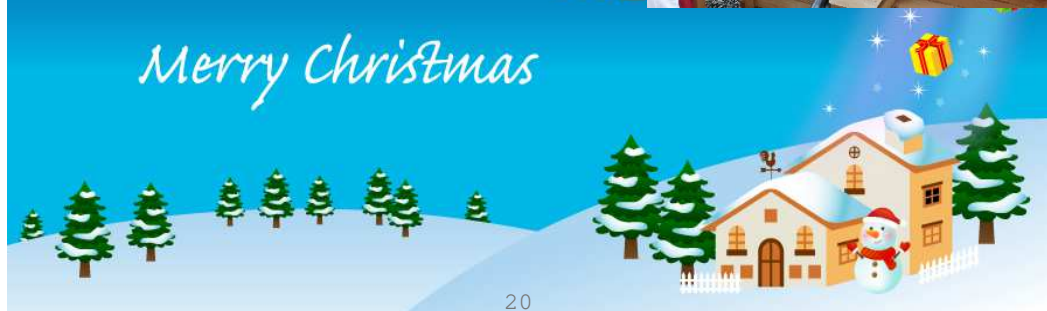


メリークリスマス

子どもたちも楽しみのクリスマス！
仮設のみなさんにも子供サンタの訪問がありました。



9



毎年恒例の餅つき



【支え合いセンターの思い】

仮設団地入居以降、七夕やクリスマス、餅つきと季節の行事を行いました。災害がなければ「いつものように」行っていた行事だと思います。仮設の方の中には、「被災して仮設に住まわせてもらっているのにいいのかしら」と遠慮がちに尋ねてこられる方もありました。被災者が楽しそうに参加するのはどのようなだろうか、と自問自答されたようです。

被災者＝悲嘆しなければならない、という方程式はないと思います。被災して悲しい思いを抱き泣いた時があれば、泣くに泣けない時もあったのではないかと思います。人が集まり楽しい時間を一緒に過ごすことは、間違いなく被災の辛さを忘れさせてくれるひと時になっていたと思います。

笑える強さこそ、逆境に立ち向かう力をくれるものだと思います、少しでも楽しめることはないかといつも思っていました。

〈畑づくり〉

近所の方からのご厚意で、所有されている畑を無償提供いただいたことをきっかけに、仮設のみんなで農業を始めてみようということになりました。個人で耕作したい方を募り区画を割り当て、それ以外は生活支援相談員が中心となり、玉ねぎやジャガイモ、ナス、ピーマン、青菜などたくさんの農作物ができました。作業毎に昼間仮設にいる住民にお手伝いを願い、「何もすることがない」と居室にばかりいる方も「出るきっかけ」になり、毎回畑作業を呼びかけると快く協力いただき汗を流されていました。



当時、隣接していた黎明館の方と一緒に玉ねぎ苗の植え付け作業もしました！



畑提供：第6区 宮原忠喜様（故）



いいお天気の日曜日！
コミュニティ作りの会で
玉ねぎの収穫祭を開催。採
れた玉ねぎはみんなで分け
合いました！(^ ^)！





いっぱい採れたよ～



支え合いセンターの思い・・・

発災前から馴染みの関係を持ち生活されていた世帯もあり、仮設でもその関係性は続いていました。畑づくりや収穫作業を通して世帯同士の交流を拡大し、お互いの地域を繋げられたと思います。

また、閉じこもり予防を目的に、日中滞在されている方には「外に出るきっかけづくり」として畑作業の協力を呼びかけ、孤独・孤立防止のコミュニティ支援ができたと思います。

8 各種支援

〈KASEIプロジェクト訪問〉

仮設団地の環境づくり支援を目的に結成された九州各県の大学生グループで、山江村にも幾度となく訪問いただき、住民と触れ合いながら住みよい仮設団地となるようご尽力いただきました。



KASEIプロジェクト訪問回数：10回

製作いただいた中で、仮設団地の住民にとって助かったものの一つが「ごみ置き場の屋根」でした。





いい座りごごち



布団を干すところがないというご要望に応え、
共同で使える布団干し
を創作してもらいました。
(KASEIの活動取材
でテレビも同行)



お花飾ろう♡



「縁側が高くて～」というお声があり、希望者と一緒に踏み台作成。
良い感じで高さ調整ができ、上がり降りが安全にできると喜ばれました。



生協くまもと&バルビー

【支え合いセンターの思い】

コロナ禍により交流の機会が制限される中、炊き出しイベントは仮設の方のみならず地域の方との触れ合いの機会にもなりました。生協くまもとの炊き出しイベントでは、懐かしき隊のポン菓子も振舞われるなど、心もほっこりとなる時間となり住民の方の笑顔にもつながったと感じます。支え合いセンター開設から閉所までの3年10か月の間、生協くまもとやバルビーから沢山の後方支援をいただいたおかげで、被災者の方々のご要望に応じることができました。



ご支援いただいた団体等 *順不同

- 熊本県社会福祉協議会
- 熊本県防犯協会連合会
- 熊本県精神保健福祉センター
- 山江村民生委員児童委員協議会
- 山江村商工会女性部
- 山江村文化協会
- 読み聞かせグループおひさま
- NPO法人かちゃリンクやまえ
- 山江村観光交流促進協議会
- 山江中学校
- 山田小学校
- 万江小学校
- 山江保育園
- 章鹿倉保育園
- 万江保育園
- 特定非営利活動法人バルビー
- 生活協同組合くまもと
- KASEIプロジェクト
- セコム株式会社
- グリーンコープ災害支援センター
- KVOAD
- ピースボード
- 味の素AGF株式会社
- (株)人吉新聞社
- 天草漁師の会
- 人吉中央ロータリークラブ
- 球磨地域農業協同組合
- 球磨地域林業木材産業振興協議会
- 熊本パールライス株式会社
- 陸上自衛隊西部方面隊
- 熊本県花き事業共同組合
- NPO法人緑のカーテン応援団
- 株式会社日比谷花壇
- 蕨野 三千男さん(山江村)
- 西 健治さん(山江村)
- 松浦 栄一さん(多良木町)
- 田所 一彦さん(福岡県)
- 〈畑提供〉
- 宮原 忠喜さん(山江村)



9 山江村の方との触れ合い

山江村の方々がいらっしゃいました！Part 1



← 読み聞かせグループ「おひさま」
サロンで紙芝居をご披露いただきました
↓



← 時代の駅の方々

→ 商工会女性部の方々



↑ あったかいメッセージ付き

↓ 西さんから野菜のお届け



↑ 西川内の蕨野さんの菊
「きれい～」と皆さんに好評
でした。



↑ 多良木町のミニトマトお届け



← 草木染グループの方々
コロナ禍で貴重な手作りマスク
を配られました。

山江村の方々がいらっしゃいました！Part 2（小学校編）



↑
山田小学校の生徒さん
↓



←万江小よりもち米と花苗

↑

少年団

緑の

山江村の方々がいらっしゃいました！Part 2（保育園・中学校編）



山江中学校より
文化祭の大作を拝見！

これ全部
折り鶴！



↑ 山江保育園
↓ お餅のお届け



↑ 章鹿倉保育園
遠足でお立ち寄り！
↓ 避難所も確認しました



←万江保育園
子ども食堂のお弁当をお届
けいただきました

山江村の方々がいらっしゃいました！Part 3



↑
山江村防災担当の勝山さんの防火講習会

山江村民生委員児童委員協議会



令和3年～毎年門松を
作成いただきました



10 生活再建に向けて

(大川内・尾寄崎・淡島・城内地区視察)



県庁住まい対策課の大川内地区視察

〈工事説明会〉



大川内地区水道復旧に向けて



道路復旧に向けて



〈旧城内団地〉



旧城内団地被災状況説明



旧城内団地復旧説明



再建予定の団地模型

1 1 被災者の声～ 体験して思うこと



忘れもしない 令和2年7月4日午前5時頃でした。後隣りの方から電話があり、緊迫した声で「外見て！」と言われ寝ぼけまなこで外を見ると堤防まで川の水があふれていました。2階も危険と判断、目についた数枚の服と貴重品のみを持ち各自の車で団地を出ました。温泉センターへ行くと係員の方に、ここも人吉方面も水が出ていてだめだと言われ、丸岡公園へ向かい、頂上を降りたすぐに土砂崩れが起きていて引き返すはめになりました。どうしようかと話しているところに城内の知り合いの方から電話があり家に来るように言ってくれました。途中、団地に気になる方がいたので、その方を含め4人で行きました。そこのお宅で朝食をいただき、その後歩いて自宅を見に行きますと、堤防はえぐられ、出る時まではあった、通り道や桜の大木から駐車場の一部がなくなっており、玄関の前は川でした。避難が数分遅れていたら車も流されていたのではと思います。家が流されるという恐怖と危険の中でできる限りの荷物を出しました。それから10日ほど経ち水が引いてきた頃24時間体制で河川工事が始まり7月16日には土嚢が積まれていました。傾いているものの流されないとわかり徹夜で作業していただいた方には感謝と感動でした。仮設住宅の完成までには、住居の提供、民宿やらブルートレインにも泊り、洗濯物を車に干し、放浪の旅らしきことも経験しました。

私は当時のことを貴重な体験としてとらえています。全国で起きている災害現場の様子はこういうことなのかと思い知らされました。ただその日を生きているだけの私にとって考えや生き方まで変えるような出来事でした。

また、行政機関の重要性を改めて感じることになり、山江村役場をこれほど身近に感じたことはありません。仕事とはいえおそらく初めての経験であろうことに対処しながら、一人一人に向き合い親切に対応していただきました。いち早く住宅の建設にも取り組んでいただきました。

仮設住宅での2年と8ヵ月の生活については、支え合いセンターの2名の方に守られていたと強く感じます。いろいろとご苦勞の中でほんとうに一生懸命支えていただきました。仕事以上のことをされていたと思います。

地域の方をはじめ全国の方々からのいろいろな形でのご支援・メッセージもたくさんいただきました。せめて地域の子供たちにはお会いしてお礼を言いたかったのですが、代表の方をお願いしたところです。

早いもので新設の公営住宅に移り住み、2回目のお盆を迎えようとしています。

今は、同じ場所で災害に遭い、気持が分かり合える人たちと一緒に過ごせていることが何よりです。

皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

編集後記

令和2年7月豪雨災害から4年目を迎えようとする令和6年6月30日、最後の住民の方が仮設団地を退居され、25世帯あった仮設団地から人の影が消えました。10月には居室の解体作業が始まり、みんなの家と居室の一部が村内で利活用される予定です。

支えあいセンターを担当した当初は、このように大きな発災を経験したこともなく、支え合いセンターという事業をどう進めていいのかと手探り状態でしたが、生活支援相談員の方と二人三脚で協力しながら活動が続け、発災から4年が過ぎようとする令和6年9月30日に閉所を迎え、支え合いセンターの業務は社協の見守り活動や生活支援事業に引き継がれました。



センター活動をする中で私たちの原動力となったのは、前を向いて進もうとされる被災者の方の笑顔、そして復興を後押ししていただいた多くの支援者の方からの「頑張れ」という応援の声でした。住民の方の中には、被災した時の恐怖や喪失感、先の見通しへの不安から人知れず涙を流された方もいらしたのではないかと思います。また、「元の生活に早く戻りたい」と願う中で、思うように進まない現状に苛立ちを持たれた方も少なくなかったのではないかと思います。

支え合いセンターでは、被災された方の生活支援や再建に向けたサポートを行います。仮設団地内にセンターがあったことと職員が常駐することで、身近にセンターを感じていただき、相談窓口としての機能を十分に発揮できたのではないかと思います。

そんな中、生活再建について住民の方と何度か面談を行いましたが、ほとんどの方が、「家に帰る」「家に帰りたい」と回答された時に、正直「帰れるのだろうか」と不安と心配が頭をよぎりました。仮設団地の暮らしの中で、「ここは便利だ」と利便性の良さを口にされる方が多かったのも、私達もこれを機に移り住む方が多くなるのではないかと thoughtたりもしました。しかし、最終的な再建を迎えた時、災害という出来事で住み慣れた土地から仮設団地に移ることになった住民の多くが元の土地に戻っていかれました。戻られた後に訪問した際には、「やっぱり家があるけん」「ここ以外に帰るところはなか」と言われていました。そこで生まれ育った人、結婚を機に移り住んだ人、そこに戻ってこなければならぬ理由があった人、そこに仕事がある人。「家に帰る」という言葉の中には、一人ひとりそれぞれの想いが詰まっていたのだと感じました。中には別の場所に住まいを移された方もいますが、それでも以前の成業を続けたり、自宅を見に行ったりと、離れていてもそれぞれの形で今もその土地とつながりを持たれています。

被災の有無を問わず、過疎が進み限界集落といわれている地域が県内でも存在します。地域活性化のために「地域おこし」を計画されるところもありますが、限られた資源を掘り起こし、使い続けるためには多くの努力を要すると思います。

今、現に住んでいる地域を残すための努力。安心して暮らせるための支援。それが仮設団地から戻っていかれた先の「地域のこし」のためにできることではないでしょうか。改まった事業でなくとも、ふと気に掛ける優しさや通りに立ち寄り寄り親しみ、足を延ばして訪ねるゆとりの気持ち。「地域のこし」の源は、誰でも持てる、誰でも持っている心配りから生まれるものではないかと、この活動誌を編成しながら思いました。

令和7年3月

山江村社会福祉協議会 丸尾美春

協	力	山江村
編集・発行		山江村社会福祉協議会
		〒868-0092
		熊本県球磨郡山江村大字山田甲1373-1
		電話：0966-24-1508
		fax：0966-32-7722
発行年月		令和7年3月